自動車会議所ニュース

2025 夏 No.962

■第91回定時総会開催

2024年度事業実績・2025年度事業計画など承認

■交通安全アクション2025

2日間で3,700人が来場

■JR田町駅前で街頭活動を実施

JAF・自動車税制改革フォーラム

※写真をクリックすると詳細記事がご覧になれます

【CONTENTS】<2025年４月～６月>

４月

■５日・６日
交通安全 アクション2025 12

５月

■15日　第309回会員研修会 16
■16日　第８回運営審議委員会 16

６月

■１日～
不正改造車を
排除する運動 17
■10日　第91回定時総会 3
2025年度総会懇親会
■27日　自動車税制改革フォーラム
街頭活動 18

TOPICS

■日本自動車会議所
・第６回東京防災 in 汐留 18
・自転車安全利用TOKYOキャンペーン 19
・飲酒運転させないTOKYOキャンペーン 19
■東京都自動車会議所ほか
・第51回通常総会開催 20
・第38回オートサービスショー開催 20
・春の叙勲 20

※各項目をクリックすると詳細記事がご覧になれます。

第91回定時総会開催

2024年度事業実績・2025年度事業計画など４議案を承認

続く理事会でトヨタ自動車会長の豊田章男氏を新会長に選定
総会終了後の懇親会に約370名が出席

日本自動車会議所は６月10日、東京・千代田区大手町の経団連会館で第91回定時総会を開催し、「2024年度事業実績・2025年度事業計画」、「2024年度決算・2025年度予算」、「定款変更」、「理事選任」の４議案が審議され、いずれも原案通り承認されました。

総会では、推薦会員の豊田章男氏（トヨタ自動車会長）、日本自動車整備振興会連合会会長の喜谷辰夫氏、日本自動車連盟（JAF）会長の坂口正芳氏、日本自動車輸入組合理事長のゲルティンガー剛氏、日本中古自動車販売協会連合会会長の塚田長志氏の５氏が新たに理事に就任しました。また、当会議所の内山田竹志会長はじめ理事４名が退任となりました。

続く第222回理事会では、「会長選定」、「副会長選定」、「名誉顧問委嘱」の３議案を審議。会長には、出席した理事から推薦のあった豊田氏が理事の互選により選定され、第14代会長に就任しました。就任挨拶に続き、豊田新会長の議事進行の下、副会長に喜谷氏と坂口氏の２氏が新たに選定され、名誉顧問

「理事選任」など４議案が審議された第91回定時総会

▲CONTENTSに戻る

には内山田前会長が就任。最後に、内山田前会長が退任の挨拶をし、理事会は終了しました。

この後、総会懇親会が開催され、会員はじめ国会議員、関係省庁、関係団体・企業など約370名の方々がご出席されました。

懇親会ではまず、主催者を代表して豊田会長が挨拶しました。豊田会長は、1946年（昭和21年）に設立された当会議所の設立趣意書冒頭に、「自動車は国民生活の維持と文化の向上に不可欠」と記載さ

内山田 竹志前会長 退任ご挨拶

2017年に会長を拝命し、８年間やってまいりました。この間、関係団体や自動車会議所の役員の皆さま、そして事務局の皆さまには大変、ご協力・ご尽力をいただき、改めてお礼申し上げたいと思います。本当に、ありがとうございました。

今、振り返ってみますと、大きく印象に残ったことが３点ございます。

１つは、何と言っても自動車関係諸税に対する取り組みです。皆さまと一緒になった活動により、税の抜本改革の気運が盛り上がってまいりました。実際の改革はこれからになりますが、いずれにしても議員、省庁、そしてメディアの皆さまに対して、自動車関係諸税の課題を浮き彫りにすることができたと考えております。

ただ、やり残したと思っていることもあります。どうしても一部からは、「自動車業界が税の軽減を要望している」という受け止め方をされており、ユーザーの皆さんの声が、もっともっと税の軽減に直結していくような活動を、これからしていかなければならないのではないかと思っています。言うまでもなく、本当に税で困っているのはユーザーの皆さんですから。

２点目は、自動車関係総合団体として、提言も含めてワンボイスで情報発信ができるようになったことです。主要団体のトップの方々に会議所副会長をお願いしていることもあり、多くの皆さまには本当にお忙しい中、理事会はじめさまざまな会合にも直接、ご出席いただいて、自動車会議所の活動を盛り上げていただいております。税制活動においても、自動車産業全体で、ワンボイスで提言・要望を出すということができました。

３点目は、「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」（CSP大賞）創設です。皆さんご存知だと思いますが、自動車産業に関わる550万人の方々に感謝をし、その活動を表彰したいということで、一般のユーザーの方々の活動も含めて自動車にまつわる諸活動を表彰しております。

こうした活動を続けて８年が過ぎましたが、

実はこの理事会の前に、事務局に「会議所は設立して何年が経ったんだろう」と聞きましたら、「内山田さんの年齢と一緒です」と言われました。つまり、来年は設立80周年という、大きな節目の時期を会議所は迎えます。このタイミングで豊田新会長にバトンタッチをし、自動車総合団体からモビリティ総合団体へ変革して、大きく世の中を引っ張っていただきたいと思っております。

最後になりますが、皆さまのますますのご発展を祈念しまして、退任の挨拶とさせていただきます。長い間、ありがとうございました。

れていることを紹介し、「クルマをニッポンの文化に！」を“合言葉”に、活動に取り組んでいく意向を示しました。また、今年度からユーザー団体のJAFが新たに会議所の会員となったことにより、自動車業界全体に会員層が広がったことを報告。豊田会長は、「会員団体・企業には、あらゆる現場があり、クルマに関わる様々な仕事をしています。そのような会員の皆さまが、クルマを日本の文化にするために多種多様なアクションを始められたら、日本の経済や国力にさらにお役に立てるようになるでしょう」として、自動車産業の日本経済や文化へのさらなる貢献に向け強い意気込みを示しました。

豊田会長に続いて、中野洋昌国土交通大臣、古賀友一郎経済産業副大臣が来賓として挨拶。その後、豊田会長はじめ、当日出席した片山正則副会長（日本自動車工業会会長）、加藤敏彦副会長（日本自動車販売協会連合会会長）、清水一郎副会長（日本バス協会会長）、茅本隆司副会長（日本自動車部品工業会会長）、喜谷副会長、坂口副会長、赤間俊一理事（全国軽自動車協会連合会会長）、ゲルティンガー理事、島﨑豊専務理事の新体制のメンバーが登壇＝９ページ参照＝し、片山副会長が乾杯の挨拶をしました。

片山副会長は、「（自動車産業で働く）550万人が結集し、自動車産業がさらに元気になるために、私を含めた全理事が豊田新会長をしっかりと支えていく所存です。自動車産業を取り巻く環境は目まぐるしく変化していますが、明るい未来を信じて、皆さまと強く結束していきたい」と述べ、「乾杯」の発声とともに懇談・懇親の輪が広がりました。

一般社団法人日本自動車会議所　役員名簿　2025年6月10日現在（順不同、敬称略）

〔会　　長〕	豊　田　章　男	推薦会員（代表理事）	《新任》
〔副 会 長〕	片　山　正　則	（一社）日本自動車工業会	会　長
	加　藤　敏　彦	（一社）日本自動車販売協会連合会	会　長
	坂　本　克　己	（公社）全日本トラック協会	会　長
	清　水　一　郎	（公社）日本バス協会	会　長
	川　鍋　一　朗	（一社）全国ハイヤー・タクシー連合会	会　長
	茅　本　隆　司	（一社）日本自動車部品工業会	会　長
	喜　谷　辰　夫	（一社）日本自動車整備振興会連合会	会　長《新任》
	坂　口　正　芳	（一社）日本自動車連盟	会　長《新任》
〔理　　事〕	赤　間　俊　一	（一社）全国軽自動車協会連合会	会　長
	ゲルティンガー 剛	日本自動車輸入組合	理事長《新任》
	塚　田　長　志	（一社）日本中古自動車販売協会連合会	会　長《新任》
〔専務理事〕	島　﨑　　豊	事務局担当（代表理事）	
〔常務理事〕	畠　山　太　作	事務局担当	
〔理事(常勤)〕	橋　本　勝　也	事務局担当	
〔監　　事〕	安　原　敬　裕	（一社）全国自動車標板協議会	会　長
	中　村　知　美	㈱SUBARU	取締役会長
	原　　典　之	三井住友海上火災保険㈱	取締役会長

▲CONTENTSに戻る

2025年定時総会懇親会 ご挨拶

◇豊田 章男会長

早速ですが、先ほど行われた総会で会員の皆さまにお話ししました、私の思う日本自動車会議所の“合言葉”をご紹介させていただければと思います。

それは、「クルマをニッポンの文化に！」――です。

日本自動車会議所会長のお話をいただくことになり、発足当時の設立趣意書を振り返ってみました。昭和21年、79年も前に書かれた設立趣意書の冒頭の言葉には、「自動車は国民生活の維持と文化の向上に不可欠」とありました。

おかげさまで今、クルマは日本の人流・物流には欠かせないものとしてお役に立っているものと思っています。しかしながら、文化としてのクルマは日本のお役に立てているのでしょうか？

海外を訪問した際、「あなたの国はどんなところですか」とよく聞かれます。春夏秋冬、和食、伝統芸能、工芸品、治安の良さなど、日本の自慢はいろいろあると思います。最近ではアニメも取り上げられています。

流行りのAIにもこの質問をしてみました。すると、やはり文化、伝統、観光、自然が初めのほうに出てきます。続いて技術や産業、そして自動車産業もようやく出てきます。同じようにドイツの自慢もAIに聞いてみました。その答えから、ドイツの一番の自慢は経済と技術力でした。その“代表選手”が自動車という結果です。ドイツの人に直接聞いても、このようにお答えするのではないかと思います。

そんなドイツを羨ましく思いました。日本もドイツのように「クルマがわが国の文化だ」と一番に答える国であったら、「どんなに嬉しいだろう」と感じた次第です。ほかの誰かが「自動車産業は国の自慢なんです」と話していただけたら、クルマに携わるわれわれとしては、自分たちの仕事をもっと誇らしく思えるのではないでしょうか。

「あなたの国の自慢をしてください」と聞かれた多くの日本人が、「日本の自慢は何といってもクルマです」と答えていただけるように取り組んでいきたい。さらに言えば、AIに聞いても、そう答えてもらえるくらいにしていければと思っています。

「クルマをニッポンの文化に！」――この合言葉を、新たな合言葉として、われわれ日本自動車会議所は、これから様々な活動をしていくことができればと考えています。

私は自工会の会長を（2018年から５年半ほど）務めさせていただきましたが、会議所と自工会との違いを一言で言うと、「動かしたい相手が異なる」ということです。自工会の会長を務めていたとき、私は、「自動車産業が国から頼られる存在になっていきたい」と言っていました。動かしたい相手は、国であり政府でした。

それに対し、自動車会議所会長として動かしていきたいのは、人々の心だと考えています。クルマというものが、「自慢をしたくなる文化」になっていくためには、政府ではなく、日本の皆さまの心を動かさなくてはいけないと思っています。これが、私が思っている自工会と自動車会議所の大きな違いです。

違いは、どのような団体・企業が会員に名を連ねているのかにも表れています。自工会には製造の会社が集まっていますが、自動車会議所には販売や整備、運行、そして保険やエネルギーといった自動車に関わるほとんどの業界団体・企業が集まっています。今年からは、ユーザー団体のJAF・日本自動車連盟も加わりました。

会員団体・企業には、あらゆる現場があり、クルマに関わる様々な仕事をしています。そのような会員の皆さまが、クルマを日本の文化にするために多種多様なアクションを始められたら、日本の経済や国力にさらにお役に立てるようになるでしょう。

自動車会議所は、多くに方々にとって聞きなれない団体であると思いますが、まずは「日本自動車会議所」という名前とスローガンだけでも、本日、覚えていっていただければ幸いに思います。よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

▲CONTENTSに戻る

◇中野洋昌・国土交通大臣

日本自動車会議所定時総会懇親会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

国土交通省では、自動車をめぐる環境の変化に対応するために、「安全・安心なクルマ社会の実現」、そして「自動車関連産業のより一層の発展」に向け、さまざまな政策に取り組んでいるところです。

例えば、今、全国で自動運転移動サービスの普及・拡大に向け、事業化の推進、そしてより円滑な社会実装を可能とするための制度整備に取り組んでいるところです。2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、商用電動車の導入支援、あるいは商用電動車の劣化に伴うバッテリーを再利用した再エネ・地産地消モデルの推進などなど、さまざまな取り組みを行っています。

また、バスやタクシー、トラックなどのドライバーの担い手不足という喫緊の課題もあります。特定技能制度への自動車運送業分野の追加や、あるいはバス、タクシーに係る日本語能力要件の緩和なども検討しており、担い手不足の解消に向けて取り組んでいきたいと思います。さらに、関係者の皆さまには現在、交通空白の解消にも取り組んでいただいており、引き続き、バスやタクシーに加え、日本版ライドシェア・公共ライドシェアも含めたさまざまな輸送手段によって全国の交通空白解消に向けた取り組みを強力に進めていくことにしています。

物流分野においては、本年4月から改正物流法が本格的に施行され、また下請法改正法案も今国会で成立しました。荷主や物流事業者の連携・協力の気運が、これまでになく高まっているところです。この気運を逃さずに、関係省庁と連携をして、改正物流法の着実な執行あるいはトラック物流Gメンによる是正・指導等に、しっかりと取り組むとともに、次期総合物流施策大綱の策定に向けて検討を進めていきたいと思います。

また、自動車事故対策につきましては、自賠法（自動車損害賠償保障法）に基づいて、自動車事故の被害者の支援に加え、事故防止に向けた政策をより一層充実させ、被害者の皆さまが安心して生活でき、そして事故のない社会の実現にも取り組んでいきます。

現在、大阪・関西万博が開催されています。国土交通省としても、大阪・関西万博の特別仕様のナンバープレートを交付させていただいており、また７月には、2027年開催の「グリーンエクスポ2027」（2027年国際園芸博覧会）を記念した特別仕様のナンバープレートの交付も開始をする予定です。さらに、地方版の図柄入りのナンバープレートも５月から新たに５地域で交付を開始しており、既存の図柄入りのナンバープレートも含めて普及に努めていきたいと思います。

こうしたさまざまな取り組みをご紹介させていただきましたが、やはり皆さまのご理解・ご協力が必要不可欠です。引き続きご支援のほど、よろしくお願いを申し上げます。

結びに、日本自動車会議所の皆さまのますますのご発展、そして本日ご出席の皆さまのご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

壇上で挨拶をする豊田章男新会長（左）

▲CONTENTSに戻る

◇古賀友一郎・経済産業副大臣

この度は日本自動車会議所総会の開催を、心からお慶び申し上げますとともに、こうして盛大な懇親会にお招きをいただきましたことを、心から感謝を申し上げます。そして、８年間にわたり会長としてご尽力を賜りました内山田竹志前会長に、心から敬意を表しますとともに、先ほど素晴らしい決意表明をされました豊田章男新会長のご就任を、心からお祝い申し上げる次第です。

本日の総会、懇親会は、自動車の製造、部品製造、販売、整備、運輸・交通など、多岐にわたる分野で自動車産業を支えてくださっている方々が一堂に集う場であると伺っています。日本経済、雇用を根底から支えていただき、自動車産業のさらなる発展に日々ご尽力いただいていることに対し、この場をお借りして、改めて心からの感謝の意を表したいと思います。

まず、米国の乗用車および自動車部品に対する追加関税措置について申し上げたいと思います。日本政府としては、米国との交渉において自動車関税、自動車部品関税を含め、事前の追加関税の見直しを強く求めているところです。また、米国の関税が国内にどのような影響を与えるかについては、メーカー、それから販売の方々も不安をお持ちだということが分かりました。そうした不安を何とか払拭し、実害が生じた場合にはしっかりと対策をとっていくため、政府としては特別相談窓口の設置や資金繰り支援などを実施していますが、産業・地域経済・国民生活への影響を見極めたうえで、追加的な対応を躊躇なく行っていく所存です。

自動車産業は脱炭素化やデジタル化などによる大変革期を迎えています。政府としては、GX（グリーントランスフォーメーション）とDX（デジタルトランスフォーメーション）の両輪でわが国の経済活動の競争力を高められるよう、全力で自動車産業を支援していきます。

まずGXについては、カーボンニュートラルの実現に向けてマルチパスウェイ戦略を進めていくことが、わが国の自動車政策の基本方針です。これを受けて、電動車の普及促進と充電インフラの整備促進を両輪で進めるとともに、水素や合成燃料などの技術開発や実証にも取り組み、引き続き多様な選択肢を追求していきたいと思います。

そしてDXについては、昨年５月に策定されたモビリティDX戦略を、昨日、改定したばかりです。国際競争の結果や地政学リスクの高まりを踏まえ、AIを活用した自動運転技術の開発実証や、経済安全保障も含めたサプライチェーンの強靭化の取り組みを進めていく方向性を打ち出したところです。本戦略に基づき、SDV（ソフトウェア・デファインド・ビークル）のグローバル市場における日系シェア３割という目標を達成すべく、取り組みを進めていきます。

そして、車体課税の見直しについては、まさに今年が勝負の１年となります。令和７年度税制改正大綱において、「取得時における負担軽減等課税のあり方を見直すとともに、自動車の重量および環境性能に応じた保有時の公平・中立・簡素な税負担のあり方等について、令和８年度税制改正において結論を得る」とされています。

経済産業省としても、しっかりと議論を進めていきますが、是非、業界の皆さま方にもお力添え・後押しをいただくことができればと考えています。

結びとなりますが、先ほどドイツ国民の「一番の一番」が自動車である、という話がありました。わが国の産業・経済の未来に向けたキーワードが、先ほど申し上げたGXとDXであることは論を待たないと思いますが、私自身、このGX、DXの両方の結束点に自動車産業があるものと考えています。

国民の生活、国民の経済を、これから大いに発展させていくためにも、自動車産業の皆さま方のますますのご健勝とさらなるご発展を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございました。

片山正則副会長（中央）の「乾杯」の発声で懇談・懇親が始まる

▲CONTENTSに戻る

懇親会場スナップ

総会懇親会で登壇する役員。左から、赤間俊一理事、喜谷辰夫副会長、清水一郎副会長、片山正則副会長、豊田章男会長、加藤敏彦副会長、茅本隆司副会長、坂口正芳副会長、ゲルティンガー剛理事、島﨑豊専務理事　　※ご所属は５ページの役員名簿をご参照ください。

豊田章男会長（左）と懇談する、西村康稔衆議院議員（自動車議連会長代理、右から２人目）と山際大志郎衆議院議員（自動車議連事務局長、右）

懇談する甘利明前衆議院議員（自動車議連特別顧問、右から３人目）。右から２人目は加藤敏彦副会長、加藤副会長の右隣が葉梨康弘衆議院議員

▲CONTENTSに戻る

歓談する（左から）豊田章男会長、島﨑豊専務理事、松本剛明衆議院議員、小渕優子衆議院議員

挨拶をする豊田章男会長（左）と、自民党幹事長の森山裕衆議院議員（右）

懇談する喜谷辰夫副会長（左）と直嶋正行元参議院議員（右）

豊田章男会長（左）と歓談する浜口誠参議院議員（右）

懇親会に出席した（左から）片山正則副会長、茅本隆司副会長。右は西村康稔衆議院議員

内山田竹志前会長（左）と懇談する坂口正芳副会長（右）

清水一郎副会長（右）と歓談する、（左から）安原敬裕監事、岡安雅幸全国自動車標板協議会専務理事

▲CONTENTSに戻る

談笑する赤間俊一理事（左）と江角直樹軽自動車検査協会理事長（右）

懇談するゲルティンガー剛理事（左）と日本自動車輸入組合の入野泰一副理事長・専務理事（右）

片山正則副会長（中央）を囲む鶴田浩久国土交通省物流・自動車局長（当時、現在は同省総合政策局長、左）と江坂行弘日本自動車工業会常務理事（右）

懇談する早川茂トヨタ自動車副会長（当時、左）と佐藤康彦トヨタモビリティ東京社長（右）

歓談する（左から）豊田章男会長、中村知美監事、茅本隆司副会長

豊田章男会長（右）と談笑する久保田秀暢国土交通省物流・自動車局次長（左）

記念撮影に応える（左から）上野禎久・日本レースプロモーション社長、豊田章男会長、坂東正明・GTアソシエイション代表、加藤俊行・スーパー耐久未来機構専務理事

▲CONTENTSに戻る

楽しみながら学べる体験型交通安全啓発イベント

「交通安全 アクション2025」 2日間で家族連れなど3,700人が来場

4月5日、6日の「会場風景」を写真で紹介

前号で既報のとおり、日本自動車会議所は４月５日㈯、６日㈰の両日、東京・新宿区の「新宿駅西口広場イベントコーナー」で、交通安全の大切さやルールを楽しく学べる体験型交通安全啓発イベント「交通安全 アクション2025」（以下、「アクション2025」）を開催しました。２日間で3,700人が来場し、趣向を凝らしたステージアトラクションやブースプログラムなどを多くの来場者に体験いただきました。今号では、前回ご案内できなかった「会場風景」を、ブースごとに写真でご紹介いたします。

「アクション2025」は警視庁新宿警察署との共催で、内閣府、国土交通省、警察庁、東京都、警視庁交通部が後援し、当会議所の会員団体をはじめ、開催趣旨に賛同する37の団体・企業などが参画。「高齢者・幼児／児童を重点対象として交通社会のルールや安全行動の大切さを啓発する」をテーマに、これらを楽しく学べる14の体験型ブースプログラムを用意して開催されました。

ピーポくんファミリー、ナスバちゃんも参加したオープニングセレモニー。
マイクを持って話すのは当会議所の島﨑豊専務理事、その左隣が新宿警察署の今村仁也交通課長

警視庁音楽隊
交通安全ミニコンサート（4／5㈯のみ）

ステージプログラムでは、警視庁音楽隊ミニコンサートや、警視庁マスコットキャラクターのピーポくんファミリーも出演した交通安全教室・撮影会などに多くの家族連れが参加しました。交通安全グッズなどがプレゼントされるスタンプラリーも実施し、小さな子どもから高齢者までたくさんの来場者で賑わいました。

当会議所では、引き続き行政や自動車業界の関係者ともに、こうした交通安全の大切さを訴える啓発イベントを実施していく予定です。

▲CONTENTSに戻る

新宿交通少年団
ミニコンサート（4／6㈰のみ）

ピーポくんファミリーとの撮影会
（警視庁新宿警察署）

主催者（日本自動車会議所、警視庁新宿警察署）による
交通安全教室（児童対象）

主催者（日本自動車会議所、警視庁新宿警察署）による
交通安全教室（高齢者対象）

主催者（日本自動車会議所、警視庁新宿警察署）による
交通標識ビンゴ大会

白バイ展示・交通安全啓発活動
（警視庁新宿警察署／新宿区）

首都高安全啓発隊＜バイク乗車体験＞
（首都高速道路／首都高速道路厚生会）

ナスバギャラリー IN 東京・ナスバちゃんぬりえ他
（自動車事故対策機構＜ナスバ＞）

ナスバちゃんとのふれあい
（自動車事故対策機構＜ナスバ＞）

▲CONTENTSに戻る

てんけんくんぬりえ体験コーナー
（日本自動車整備振興会連合会）

VICS　VR体験
（道路交通情報通信システムセンター）

交通安全シミュレーター（4／5㈯のみ）
（東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部）

交通安全シミュレーター（4／6㈰のみ）
（東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部）

交通安全にはまず洗車・きれいなクルマで安全ドライブ
（自動車用品小売業協会）

電動車いすの安全利用
（電動車いす安全普及協会）

ゲンチャレ＜原付免許試験問題にチャレンジ＞
（日本二輪車普及安全協会）

子ども安全免許証／リフレクBOX
（JAF／日本自動車連盟 東京支部）

運動能力年齢診断①
（日本自動車会議所会員団体合同）

▲CONTENTSに戻る

運動能力年齢診断②
（日本自動車会議所会員団体合同）

生命のメッセージ展
（全日本トラック協会／いのちのミュージアム）

総合受付・スタンプラリー
（日本自動車会議所会員団体合同）

「交通安全 アクション 2025」開催概要

【日　時】　4 月 5 日㈯　12 時 00 分～ 17 時 00 分／ 4 月 6 日㈰　11 時 00 分～ 16 時 00 分
【場　所】　新宿駅西口広場イベントコーナー（〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1 丁目地先）
【プログラム概要（カッコ内は出展団体・企業。順不同）】
＜ステージプログラム＞▽警視庁音楽隊　交通安全ミニコンサート（警視庁新宿警察署）※ 5 日のみ▽新宿交通少年団　ミニコンサート（新宿交通少年団）※ 6 日のみ▽ピーポくん撮影会（警視庁新宿警察署）▽交通安全教室《児童／高齢者対象》（日本自動車会議所）※参加者には記念品贈呈▽交通標識ビンゴ大会（日本自動車会議所）
＜ブースプログラム＞▽白バイ展示・交通安全啓発活動（警視庁新宿警察署／新宿区）▽首都高安全啓発隊〈バイク乗車体験〉（首都高速道路㈱、首都高速道路厚生会）▽ナスバギャラリー IN 東京・ナスバちゃんぬりえ、他（自動車事故対策機構〈ナスバ〉）▽てんけんくんぬりえ体験コーナー（日本自動車整備振興会連合会）▽VICS　VR 体験（道路交通情報通信システムセンター）＝新規▽交通安全シミュレーター（東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部）▽交通安全にはまず洗車　きれいなクルマで安全ドライブ（自動車用品小売業協会）▽電動車いすの安全利用（電動車いす安全普及協会）▽ゲンチャレ（日本二輪車普及安全協会）▽子ども安全免許証・反射材効果体験（日本自動車連盟〈JAF〉東京支部）▽運動能力年齢診断①②（協力団体　共同ブース）▽生命のメッセージ展（全日本トラック協会／いのちのミュージアム）＝新規
＜その他＞▽スタンプラリー
【主催・後援および参画団体･企業一覧】
［主催］　一般社団法人 日本自動車会議所、警視庁新宿警察署
［後援］　内閣府、国土交通省、警察庁、東京都、警視庁交通部
［協力］（順不同）（一社）日本自動車車体工業会、（一社）日本自動車タイヤ協会、（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）日本中古自動車販売協会連合会、（一社）日本自動車整備振興会連合会、（一社）全国ハイヤー・タクシー連合会、（一社）全国自家用自動車協会、（一社）全日本指定自動車教習所協会連合会、（一社）全国レンタカー協会、（一社）日本二輪車普及安全協会、（一社）日本自動車運行管理協会、（一社）自動車用品小売業協会、（一社）神奈川県自動車会議所、（一社）愛知県自動車会議所、（一社）日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会、（一社）日本自動車連盟 東京支部、（一社）岐阜県自動車会議所、（一財）関東陸運振興センター、（一財）日本自動車研究所、（一財）全日本交通安全協会、（一財）首都高速道路厚生会、（一財）道路交通情報通信システムセンター、（公財）日本自動車教育振興財団、（公財）東京都道路整備保全公社、（公社）全日本トラック協会、（独）自動車事故対策機構、日本自動車輸入組合、首都高速道路㈱、イーティエフ㈱、㈱ジェイアール東日本企画、東京企画装飾㈱、本田技研工業㈱、日産自動車㈱、トヨタ自動車㈱、電動車いす安全普及協会、東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部、新宿区みどり土木部　＜計 37 団体・企業＞

第309回会員研修会開催

「日本の環境･エネルギー政策の在り方～米トランプ政権の誕生を受けて」をテーマに
国際環境経済研究所理事・主席研究員の竹内純子氏が講演

日本自動車会議所は５月15日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第309回会員研修会を開催しました。地方の自動車会議所などリモート参加も含めて約30名が出席しました。今回は「日本の環境・エネルギー政策の在り方」をテーマに、国際環境経済研究所理事・主席研究員の竹内純子氏を講師にお迎えしました。竹内氏は、東京電力で環境部門に従事されたあと独立され、複数のシンクタンク研究員や、大学の客員教授、政府のGX実行会議のメンバーなどを歴任。国連気候変動会議（COP）にも長く参加され､積極的に提言活動をされています。

竹内 純子氏

講演では、世界的な脱炭素の潮流の変化や、米トランプ政権誕生による影響、それに伴う各国エネルギー政策の転換、日本のエネルギー基本計画等の戦略および現実的な対応とは何か――などについて、お話しいただきました。

具体的には、世界のGDPの約７割（米国が抜ける前は９割）がカーボンニュートラルを目指す国々に属しており、ESG(環境・社会・企業統治)関連の投資が台頭する一方で、定義の曖昧さやデータの不確実性から、脱ESGの動きも出てきている状況となっていることについて説明しました。

また直近のCOPでは先進国から途上国への資金支援が最大の焦点になっており、年間3,000億ドルのコミットメントが合意されましたが、米国は拒否しており、今後日本がどれだけ出資したかで評価される立場になっているということです。

日本のGX・エネルギー戦略については、今年２月に決定した「第７次エネルギー基本計画」について触れ、再エネ比率を大幅に増やす方向の中で、日本の地理的制約から再エネだけでは不十分との認識を示されました。原子力の活用は不可避であることなど、今後のエネルギー政策のあり方などについても提言し講演を終えました。

日本自動車会議所　第８回運営審議委員会開催

定時総会および理事会への上程議案を審議

日本自動車会議所は５月16日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第８回運営審議委員会（委員長＝松永明・日本自動車工業会副会長）を開催し、第91回定時総会および第221回理事会の上程議案について審議しました。

島﨑豊専務理事の挨拶のあと、松永委員長の議事進行に続いて、畠山太作常務理事が第91回定時総会および第221回理事会の上程議案である①2024年度事業実績・2025年度事業計画案、②2024年度決算・2025年度予算案、③定款変更、④理事選任（定時総会のみ）の４議案について説明しました。第221回理事会上程議案の「役員選定案」については、総会当日の提案になる旨の説明があり、審議・意見交換を経てすべての議案は承認され、委員会は閉会となりました。

松永 明委員長

後日、第221回理事会が書面開催され、推薦会員加入の件を含めたすべての議案が承認されました（決議日：５月26日）。

▲CONTENTSに戻る

「不正改造車を排除する運動」６月は強化月間

多様なメディアを活用し幅広い層に訴求

国土交通省・不正改造防止推進協議会

国土交通省は、警察庁などの関係省庁や自動車関係団体などとともに、2025年度「不正改造車を排除する運動」を展開しています。強化月間としている６月には、日本自動車会議所など自動車関係32団体で構成する「不正改造防止推進協議会」（事務局＝日本自動車整備振興会連合会）と同省が中心となって全国でキャンペーンを展開。ポスターやチラシ、SNSなど多様なメディアを活用し、幅広い層に対して不正改造車の違法性や危険性を訴求しました。

国交省では、暴走行為や過積載などを目的とした不正改造が、「安全を脅かし道路交通の秩序を乱すとともに、排出ガスによる大気汚染、騒音等の環境悪化の要因となっている」として、この運動を1990年から実施しています。強化月間には、警察機関などと連携しながら、次の３つの項目を「集中的かつ積極的に実施」するとしています。

１．不正改造を「しない」・「させない」ための啓発等

ポスター及びチラシ等によりマスメディア、インターネットサイト、SNS等を利用した公報、運輸支局による自動車整備士養成施設等への出前講座の実施や全国の乗合バス事業者の協力によるバス車両への広報横断幕の掲示等を行い、積極的に不正改造車の排除を呼びかけます。

特に、違法マフラーについては、自動車関係団体と連携を図りながら自動車ユーザーへ使用の違法性の啓発を重点的に行います。

２．街頭検査の実施

違法マフラーなど悪質な不正改造車を公道から排除するため、警察機関の協力のもと、強化月間中に全国で街頭検査を集中的に実施し、違反車両に対して整備命令を発令し、これに従わない場合は車両の使用停止等を含む厳正な処分を行います。

３．不正改造車に関する情報収集

各運輸支局等に「不正改造車・迷惑黒煙車情報提供窓口」を設置し、寄せられた情報をもとに、不正改造車ユーザーへ改善報告を求めるハガキを送付するなど、不正改造車の排除のための諸活動に有効活用します。

強化月間の啓発ポスター

▲CONTENTSに戻る

JR 田町駅前で街頭活動を実施

前倒しして税負担軽減・簡素化を訴える

JAF・自動車税制改革フォーラム

日本自動車会議所や日本自動車連盟（JAF）など自動車関係21団体で構成する自動車税制改革フォーラムは６月27日、東京・港区のJR田町駅前で、「過重で複雑な自動車関係諸税」の負担軽減・簡素化を訴える街頭活動を行いました。税制活動は毎年秋頃から本格的にスタートしますが、自動車税の納付期限を５月末までとしている自治体が多く、６月は税に対するユーザーの意識や関心が高まっている時期であることから、前倒しして実施しました。

フォーラムでは、諸外国に比べわが国の車体課税が過重であることや、98.9％もの自動車ユーザーが税に負担を感じていることなどが書かれたチラシを制作。当日は、駅の東口と西口で、約40人のスタッフが利用客らにそのチラシが入ったノベルティグッズ1,200個を配布しました。チラシに掲載されたQRコードからは、フォーラム活動や、自動車税制の課題などを解説したサイトにアクセスして見られるようになっています。

JAFでは毎年、自動車ユーザーを対象に「自動車税制に関するアンケート調査」を行っており、一部の団体では、集まった自動車ユーザーの意見などを参考に税制改正要望書などを取りまとめています。

ノベルティグッズを駅利用者に配布するJAF・フォーラムのスタッフ。女性に手渡しているのは佐藤康彦・JAF関東本部長（トヨタモビリティ東京社長）

JAF・自動車税制改革フォーラムでは、こうしたユーザーの声を真摯に受け止め、毎年12月の税制改正大綱取りまとめに向けてさまざまな活動を展開しています。

TOPICS

第６回東京防災 in 汐留

愛宕警察署と協力し「クイックアーム」のブースを出展

日本自動車会議所は４月24日、汐留町会（東京・港区東新橋）が主催する防災訓練「第６回東京防災 in 汐留」に参加し、俊敏性測定器「クイックアーム」を出展＝写真＝しました。このイベントは、防災意識の高い街づくりを目的として、芝消防署や愛宕警察署、港区、汐留イタリア街商店会などが協力して開催。地元住民やオフィス街で働く約200人が参加し、イタリアの都市をイメージして造られた「イタリア街」の一角にある「汐留西公園」（東新橋２丁目）で放水ホースや消火器などを使った防災訓練を体験しました。当会議所は、愛宕警察署と協力して、ゲーム感覚で俊敏性を測定できる「クイックアーム」のブースを出展。多くの来場者に楽しんでいただきました。

▲CONTENTSに戻る

新宿警察署が「自転車安全利用TOKYOキャンペーン」開催

会場の新宿通りが多くの来場者で賑わう

協力団体として当会議所も「クイックアーム」を出展

警視庁新宿警察署と新宿交通安全協会は５月25日、東京・新宿区の新宿通りで交通安全イベント「自転車安全利用TOKYOキャンペーン in 新宿通り」を開催し、多くの来場者で賑わいました。当会議所は協力団体として参加し、事故防止に必要な「認知・判断・行動」の能力をゲーム感覚で楽しみながら測定できる「クイックアーム」を出展＝写真。多くの来場者に体験いただきました。

会場は、JR新宿駅東口から伊勢丹前までの公道を一時的に歩行者専用道路として使用。メイン会場の新宿アルタ前では、新宿交通少年団による鼓笛演奏でイベントが幕を開けました。続いてプロのスタントマンによる「スケアード・ストレイト交通安全教室」が行われ、スタントマンが自転車と自動車の事故を模擬的に再現し、事故の恐ろしさや交通ルールの重要性を来場者に強く印象づけました。

また、伊勢丹前までの通りでは、パトカーや白バイの展示、自動車事故対策機構（NASVA）による交通事故被害者の写真展のほか、トラックの死角体験、シニアカーの試乗体験など、多彩なプログラムが展開され、子どもから大人まで楽しめる内容となりました。

なお、2023年４月１日より、自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されています。警視庁および警察庁の統計によると、2024年における自転車事故の死亡者の64.0％が頭部に致命傷を負っており、ヘルメット非着用時の致死率は着用時の1.8倍に上るとされています。自転車に乗る際は、命を守るためにもヘルメットの着用が極めて重要です。

「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」

タレントの柳沢慎吾さんをゲストにキックオフイベント開催

東京都・警視庁・東京都交通安全協会

東京都は７月１日､東京･千代田区の「KITTE丸の内」で、警視庁交通部、東京都交通安全協会との共催により「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」のキックオフイベントを開催し、飲酒運転の根絶を訴えました。忘年会など宴会が多い12月に次いで、７月と８月も飲酒の機会が非常に多い時期であることから、東京都では「飲酒運転に起因する交通事故の発生が懸念される」として、毎年７月１日～７日までの７日間に同キャンペーンを展開しています。

初日のイベントには、タレントの柳沢慎吾さんがゲストとして参加。１階アトリウム内に設けた特設ステージで、東京都の防犯マスコットキャラクター「みまもりぃぬ」、警視庁のマスコットキャラクター「ピーポくん」と共に、笑いも交えながら交通安全の大切さを訴えました。また、警視庁の若手警察官とも共演して交通安全教室を開催し、最後に「いい夢見ろよ！　あばよ！」との決めゼリフでイベントを締めくくりました。

東京都では、キャンペーン期間中はホームページやSNSでの発信のほか､飲食店､駐車場などでのチラシ配布やステッカー・シールの掲示、街頭ビジョンでの広報活動などにより「飲酒運転による重大交通事故の抑止を図っていく」としています。当会議所も、同キャンペーン推進委員会メンバーとして、飲酒運転根絶に向けた活動を展開しています。

笑いも交えながら交通安全の大切さを訴える柳沢慎吾さん（中央）。左が警視庁のマスコットキャラクター「ピーポくん」、右が東京都の防犯マスコットキャラクター「みまもりぃぬ」

▲CONTENTSに戻る

東京都自動車会議所 第51回通常総会開催

カーボンニュートラルの実現などに取り組む

東京都自動車会議所（中川雅治会長）は６月３日、東京・西新宿の京王プラザホテルで第 51 回通常総会＝写真＝を開催しました。令和６年度事業報告・決算報告と同７年度事業計画・収支予算案などを審議し、いずれも原案通り承認されました。

中川会長は通常総会の冒頭、「現在の自動車業界の最大の関心事はトランプ関税の行方です。自動車産業にも大きな影響を与えるので政府の交渉力に期待しています。頑張ってほしい」と挨拶しました。また「トラック、バス、タクシー業界のドライバーや自動車整備業界の整備士の人手不足問題も依然、深刻な状況が続いています」と指摘。その上で「会員の皆さまが抱える共通の課題の解決に向けて、皆さまと一緒に考え、活動していく所存であります」と述べました。

続いて令和６年度の事業報告と決算報告について事務局が説明。監事による監査報告を受け、異議なく承認されました。令和７年度事業計画では重点項目として掲げた自動車関係諸税の軽減、自動車分野のカーボンニュートラルの実現、交通安全の徹底に取り組むことが承認されました。

通常総会終了後は懇親会を開催しました。会員に加え、自民党所属の都議会議員と同 22 日に予定されていた都議会議員選挙の立候補予定者、東京都環境局幹部も顔をそろえ、総勢約 80 人による和やかな歓談の輪があちらこちらで見られました。〔東京都自動車会議所〕

「第38回オートサービスショー 2025」開催

前回を大きく上回る４万人超が来場し盛況

整備業界の技術革新に対する関心の高さ映す

自動車整備検査用機器・システムを一堂に展示する「第 38 回オートサービスショー 2025」が６月 19 日から 21 日まで３日間にわたり、東京・江東区有明の東京ビッグサイトで開かれました＝写真。全国各地から４万 324 人が来場、前回（2023 年開催、３万 5,770 人）を大きく上回る盛況となり、OBD（車載式故障診断装置）検査の完全施行など整備業界の技術革新に対する関心の高さを示しました。

今回のショーのテーマは「次世代モビリティと共に歩む整備機器」。前回を 11 上回る 112 社・団体が 1,107 コマにわたり出展しました。初日の開会式では、主催者である日本自動車機械工具協会の柳田昌宏会長が挨拶し、「次世代モビリティの進化に対応するためには整備士の技術や知識はもちろん、それを支える整備機器・システムも進化し続けなければなりません。このショーには、変わりゆくクルマ社会の中で整備業界が持つ技術力と柔軟性を生かし、未来に貢献するためのヒントが集まっています」と述べました。

オートサービスショーは 1948 年に開催した「自動車整備用機械工具実演展示会」を端緒とし、1973 年に現在の名称に変更。1983 年から原則隔年で開かれています。〔東京都自動車会議所〕

令和７年「春の叙勲」

当会議所関係者３氏が受章

令和７年「春の叙勲」で、当会議所の会員団体関係者３氏が晴れの栄誉に輝かれました。※役職は４月 29 日の発令当時のものです。

【叙勲】

◇旭日小綬章

・木村　英敬氏：元青森県自動車団体連合会会長

◇旭日双光章

・坂田　喜信氏：大阪自動車会議所会長

◇瑞宝中綬章

・神谷　俊広氏：全国ハイヤー・タクシー連合会理事長

▲CONTENTSに戻る

日本自動車会議所会員（2025年７月15日現在）＝団体会員 92、順不同＝

一般社団法人 日本自動車工業会
一般社団法人 日本自動車部品工業会
一般社団法人 日本自動車車体工業会
一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
いすゞ自動車販売店協会
トヨタ自動車販売店協会
日産自動車販売協会
UD トラックス販売協会
日野自動車販売店協会
三菱自動車販売協会
三菱ふそう自動車販売協会
全国スバル自動車販売協会
ダイハツ自動車販売協会
全国マツダ販売店協会
スズキ自動車販売店協会
ホンダ自動車販売店協会
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
日本自動車輸入組合
一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
一般社団法人 日本自動車機械工具協会
公益社団法人 全日本トラック協会
公益社団法人 全国通運連盟
公益社団法人 日本バス協会
一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
一般社団法人 全国自家用自動車協会
一般社団法人 日本損害保険協会
石油連盟
一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会
一般社団法人 全国自動車標板協議会
一般財団法人 自動車検査登録情報協会
一般社団法人 全国レンタカー協会
一般社団法人 日本自動車リース協会連合会
一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
一般社団法人 自動車公正取引協議会
全国自動車検査登録印紙売捌人協議会
一般財団法人 関東陸運振興センター
一般社団法人 東京都トラック協会
一般社団法人 神奈川県トラック協会
一般社団法人 日本道路建設業協会
一般社団法人 日本ゴム工業会
一般社団法人 日本塗料工業会
一般社団法人 板硝子協会
日本自動車車体整備協同組合連合会
一般社団法人 日本交通科学学会
一般社団法人 日本陸送協会
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
一般財団法人 日本自動車研究所
一般社団法人 日本自動車機械器具工業会
特定非営利活動法人 ITS Japan
公益社団法人 自動車技術会
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
一般社団法人 日本ガス協会
一般社団法人 日本自動車運行管理協会
一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会
一般社団法人 自動車再資源化協力機構
一般社団法人 自動車用品小売業協会
一般社団法人 日本オートオークション協議会
日本中古車輸出業協同組合
全国オートバイ協同組合連合会
一般社団法人 日中投資促進機構
一般財団法人 日本自動車査定協会
一般財団法人 全日本交通安全協会
公益財団法人 日本自動車教育振興財団
一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
全日本自動車部品卸商協同組合
一般社団法人 日本自動車購入協会
一般社団法人 日本自動車連盟
一般社団法人 スーパー耐久未来機構
一般社団法人 日本自動車車体補修協会
一般社団法人 青森県自動車団体連合会
一般社団法人 岩手県自動車会議所
一般社団法人 宮城県自動車会議所
一般財団法人 秋田県全自動車協会
山形県自動車団体連合会
一般財団法人 福島県自動車会議所
東京都自動車会議所
一般社団法人 神奈川県自動車会議所
一般社団法人 静岡県自動車会議所
一般社団法人 愛知県自動車会議所
一般社団法人 岐阜県自動車会議所
一般社団法人 三重県自動車会議所
一般社団法人 富山県自動車会議所
一般社団法人 石川県自動車会議所
一般社団法人 福井県自動車会議所
一般社団法人 大阪自動車会議所
一般社団法人 徳島県自動車会議所
一般社団法人 香川県自動車会議所
愛媛県自動車会議所
高知県自動車会議所
一般財団法人 大分県自動車会議所

（ほかに企業会員 74、推薦会員１）
企業会員の一覧はこちらから

自動車会議所ニュース 2025 夏 No.962

発行所 一般社団法人 日本自動車会議所
Automobile Business & Culture Association of Japan

発行人 島﨑 豊　編集人 田村里志

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30
日本自動車会館15階

電話 03（3578）3880
FAX 03（3578）3883
URL https://www.aba-j.or.jp

▲CONTENTSに戻る